

関宿散策で 街道産業を体感する

experience Tokaido industry
along the Sekiyuku walk

東海道第17番目の宿場町である関宿は、東海道と伊勢別街道、大和街道の三筋が交わる交通の要衝。鈴鹿越えの拠点の宿場町として古くから賑わっており、旧東海道の中で唯一歴史的な町並みが残る。東西1.8キロに及ぶ街道筋には、当時の建物や産業の面影があり、今でも当時の余韻を残しながら生活が営まれている。

32 地藏院 (国重要文化財)

関町新所 1173-2
0595-96-0018



「関の地藏に振袖着せて、奈良の大仏婿に取る」の俗謡で名高い関地藏院。天平13年、行基菩薩の開創と言われる。東海道の旅人の信仰を集め、現在でも多くの参拝客で賑わう。境内の本堂・鐘楼・受染堂の3棟が国の重要文化財に指定。

33 志ら玉(前田屋製菓)



1個85円

三種の神器のうちの勾玉をイメージして考案されたと言われている。真っ白な弾力のある皮は上新粉に白玉粉を混ぜた秘伝の生地。北海道十勝産の小豆を使用したこし餡。

関町中町407
0595-96-0280
10:00~18:00
年中無休

34 かねき伊藤彦市商店



お茶の官能審査方法(人の五感による昔ながらの審査方法)を体験できるほか、お茶の製造工程を見学できる。知恵を生かした地下室は必見。

慶応元年の創業以来、三重のお茶、伊勢茶にこだわり続けている茶問屋。地元関・亀山のお茶のほか、県内各地の茶を取り扱っている。長年培った技術を生かした銘茶「天下一」やほうじ茶が人気。

関町中町390
0595-96-0357
9:00~19:00
不定休
8名程度まで
2台



工場見学の所要時間は20分程度(事前予約要)

35 深川屋 陸奥大塚



寛永年間に創案された「関の戸」は、こしあんを求肥で包んで和三盆をまぶした銘菓。15個入850円

関町中町387
0595-96-0008
9:00~19:00
木曜日



関所御免の文様が見事な手縫いで施されている。



総螺鈿で贅を託された荷担箱の底面には、お菓子を風味よく保存・運搬するため工夫が施されている。



価格だけでなく、小判(金:主に関東の通貨)と丁銀(銀:主に関西の通貨)の交換レートも記載。関を境にした関東・関西の語源の地ならではの、変動相場制である旨の表記もある。



江戸時代に使われていた菓子型(上)と菓子型職人に発注する際のイメージ図(下)

36 関まちなみ資料館



江戸時代の伝統的な町屋を公開し、宿場の暮らしを垣間見ることが出来る資料館。資料館入口には「ぼったり(店の前に取り付けられた上げ下げできる棚。商品を陳列したり、人が座ったり出来た)」があり内部の部戸(しとみど)とあわせて、町屋独特の工夫が見られる。

関町中町482
0595-96-2404
9:00~16:30
月曜日(祝日の場合は翌日、12月28日~1月4日)
大人 300円・小・中・高校生 200円
※関宿旅籠玉屋歴史資料館と共通。
Pなし(観光駐車場を利用のこと)

西の追分

P 観光駐車場(無料)

P 観光駐車場(無料)

38 ナガヲ薬局

亀山市関支所

40 関宿旅籠
玉屋歴史資料館

山車倉

41 高札場跡

36 関まちなみ資料館

48 うなぎの初音

JR関西本線

地藏院口

21 道の駅「関宿」P(無料)

38 ナガヲ薬局

関宿の中で江戸時代のまま現存する6つの町屋のうちの1つ。大正時代に創業した薬局は現在は営業していないが、明治以降の薬やポスターなどを見ることが出来る。喫茶(2階)を利用した人のみ見学できる場所もある。

関町中町420-1
0595-96-0045
9:00~19:00
平日
可能
15名
なし
▲事前予約があれば平日もオープン



当時を忍ばせるノスタルジックな看板もたくさんある。



ナガヤオリジナルブレンド茶(関の戸付き)500円が2階でいただける。

39 会津屋

一番人気の山菜おこわは、薪をくべ、かまどで蒸し上げたもちもちの食感。日高昆布のだしが決め手の街道そばとのセットメニューを是非どうぞ。

関町新所1771-1
0595-96-0995
10:30~17:00
月曜日
可能
45名
5台(観光駐車場より徒歩2分)



お薦め定食 1,350円



父の仇討ちをした関の小万が育った旅籠として有名な会津屋。店の看板は、平仮名(あいづや)を辿ると京都へ、漢字(会津屋)を辿ると江戸を向き、宿泊をした旅人が方向を間違えないようにとの配慮が見られる。

40 関宿旅籠玉屋歴史資料館

「関で泊まるなら鶴屋か玉屋、まだまだ泊まるなら会津屋か」と語られたほどの関宿を代表する大旅籠のひとつ。江戸時代に栄えた玉屋の建物を復元し、当時の旅籠の姿を分かりやすく紹介した日本初の旅籠資料館。「玉屋」の屋号にちなんだ虫籠(むしこ)窓は、関宿の象徴となっている。奥にある土蔵には、「東海道五十三次」で有名な歌川(安藤)広重の浮世絵も展示。

関町中町444-1
0595-96-0468
9:00~16:30
月曜日(祝日の場合は翌日)12月28日~1月4日
大人300円 小・中・高校生200円
※関まちなみ資料館と共通。
なし(観光駐車場を利用のこと)



江戸時代の特産物の竹火縄。当時は数十件の火縄屋があり、鉄砲用のほか、煙草用などに購入された。



41 高札場跡

高札場とは、幕府の法度や掟書、宿場の決まりなどを掲示した場所。隣接宿場までの人馬駄賃の規程(例えば、亀山宿まで荷物寄駄 六拾九文)なども載っていた。写真は、過去の資料をもとに復元されたもので、現在の関郵便局の前に立つ。

42 桶重

昔、宿町では足洗用の桶などの需要が多く、桶作りが栄えた。明治15年に創業した「桶重」は、三重の伝統工芸品に指定される「関の桶」を作る。使い込まれた数々の道具類が並べられている。



古い建物や粋な屋根瓦も魅力

43 鍛冶屋

江戸時代から刀や、鍬や鋤や鎌などの農具や生活用品を作ってきた鍛冶屋。残念ながらも今は職人の姿はないが、当時の面影を残す製造現場を覗くことができる。



44 大鳥居(伊勢神宮一の鳥居)

東海道と伊勢別街道の分岐点である東追分にある。伊勢神宮を運送するためのもので、20年に一度の伊勢神宮式年遷宮の際、内宮宇治橋南詰の鳥居が移される。



山車倉



「関の山」と言う言葉の語源にもなった「関の山車」。最盛期には16基を誇り、「この狭い街道では目いっぱいこれ以上は無理」と言う意味で、「関の山車」と言う語源が生まれた。現在は4台が残り、4ヶ所に山車倉がある。

お楽しみマップ



特別割引の関宿お楽しみマップ(1部) 500円

ちよとひといき

関宿周辺



45 而今禾(jikonka)

関宿の古い町並みにある町屋を生かしたカフェとギャラリー。カフェでは、地元産の食材を使用したランチ、天然酵母のパンなどがあり、中に「関の戸」が入ったアンパンもある。ギャラリーでは現代作家の作品や古い道具類を展示販売している。関の戸あんぱんは150円。

関町中町596
巨五銀行関支店古跡
0595-96-3339
11:00~17:00
水・木曜日
▲夏季・冬季休業有り。



46 英国紅茶の店 Earl Grey

全国でも珍しい江戸時代の町家を用いた紅茶専門店。英国調のシックなティールームでは、40種類もの紅茶があり、ゆったりとティータイムを楽しむことができる。紅茶付きケーキプレート1,350円が人気。

関町木崎512
0595-97-8377
11:00~19:00
不定休
営業時間外も予約可能・要相談
20名
3台



47 春夏冬(あきない)

関宿の東側にある「たい焼き」が自慢の甘味処。皮は薄めでしょぼまで餡がつまっている。餡入り、栗入り、カレー入りの3種。たい焼き1個とお抹茶の「春夏冬セット」350円が人気。売り切れ次第終了。

関町木崎1476
0595-96-1871
10:30~16:30
木曜日、そのほかの日は不定休

関宿内にいくつかあるかさがしてみよう!

42 桶重



輪金具

商家の柱に取り付けられた馬をつないだ輪金具が今も残る。低い位置にあるのは、牛用。

関神社

45 而今禾

49 山石

46 Earl Gray

50 萌へ井

亀山市観光協会

47 春夏冬(あきない)

44 大鳥居

P観光駐車場(無料)

東の追分

国道1号線

JR関駅

ひと足のばして

37 亀山市歴史博物館



常設展示は、古墳の模型や出土品、歴史・民俗・美術工芸などの地域の歴史に根づいた資料を紹介している。街道と宿場のようなコーナーでは、東海道の亀山宿、関宿、坂下宿、大和街道の加太宿などの地域に遺る史料を紹介し、先人との対話コーナーでは、地域の歴史にゆかりの人物の遺品や作品を紹介している。年3回展示替えを行い、テーマ展示やそれにちなんだ歴史講座を開催している。また、春と夏には、企画展も開催している。

若山町7-30
0595-83-3000
9:00~17:00
火曜日(2/29~1/3(臨時休館))
可能
大人200円 学生生徒児童100円
あり